

蟻は落ちているスペースシャトルだつて子供のときは分かってた

田中クロコ

子供んときさ

ぶっちゃけるとわるいことをしたでしよ

雑木林で

くさむらで

あれだよあれ

解体とかしてたでしよ

虫とか

とんぼの目玉とか

「わあ！こんなに手足もなくなっているのになお、こいつ生きてら！」みたいな昔の漫画にあるような台詞とか言っちゃってたでしよ

あんなに

残酷であるべき理由もなかったというのに

性善説とかそういうのを全部覆す感じで

私は

ザンコクであった

で、その残酷さのターゲットはおもに蟻だとかトンボで

いまなんか手で触れもしない気味悪さを感じてしまうんだが

彼ら彼女らのほうが当時の私をみて震えあがっていただろう事は

容易に想像ができる

蟻のあれを引きちぎった 蟻にもし歯が生えていたんだとしたら

ペンチでいっぼんいっぼん抜いていただろう お母さんが呼びに来るまで

そのうえ自分がペンチで蟻の歯を抜いているということに

そこはかたない罪の臭いを感じたりもするから何でもないよと言って

太もものあたりに蟻の残骸をなすりつける それでご飯前に手を洗う

そんなことをやっていただろうと思う 蟻にもしもちゃんとした腸が

入っていたならばそれを引きずりだす 引きずり出したまま裂けた腹を

空中でぶらーんとしてみせて弟妹たちに見せびらかす 鼻汁を垂らした彼ら

彼女たちもたぶん姉のやったその残酷な花火にしばし見入っている
食べてもいいか、と彼らのうちに訊かれたらだめだよたぶん毒あるからと
自分のやったことの残酷さが蟻のなかに残存しているのだと思ひ込んで言う
そんな蟻とかがどうして私にたいして憂き目にあつたのか

何となく弟妹の漢字書き取りノートをみていて思った

あいつらの字って蟻みたい　ていうか蟻が漢字みたい

っていうか蟻どもの身体ってフォントが異なる　昆虫であるがゆえ

人間とはそら違うだろうとは思うんだけどイルカとも豚とも異なる

昆虫ってフォントが違っているのだ　私は彼らの身体が不思議で

どうにも目につくからあんなに昆虫を解体のターゲットにしたのだろう

部首を分解してみたくなって　しかしながら大人になり彼らの生態がいかに

優れた英知に基づいているものかということを理解してからはとても

恐くて触れない　あれはスペースシャトルが落ちているようなもので

とても触ったらいけませんでなる　あんたがその英知に壊されるから

じじつ昆虫に噛まれてその毒で死ぬなんていうことは全然あり得ているし

(あいつらの場合のみ、たんに噛まれることを喰われると表記もする)

小さいから弱いなんていうことがないということは昆虫にみな教わった

たぶん宇宙にはとてもない英知がありUFOがブンブン飛んでいるという

想像はもはや現実の一部だというふうに考えているんだけど私は

蟻やら昆虫　彼らのフォントは私たち人間を書いたフォントと異なる

でもUFOなんていないですよとかありえないおとぎばなし

宇宙なんてお前らの想像のなかにしか存在していないんだよという事を

信じさせるために宇宙の英知はたぶん昆虫を極小のフォントで書いた

何の素晴らしいパーツで出来上がっているかみえなくするため

どんな宇宙の部首が彼らの身体の構成に使われているかを隠すため

でも

子供のときで目のなかで世界をつくるからあれが違ってるって分かるんだね

たんとたんとその不思議さに対抗するみたいに部首を選びわけようと解剖してた